

《教育長メッセージ 第45号》

『英語教育』

私と同じ年代の方々は、中学、高校と英語を勉強しましたが、ほとんどの方が英語で外国の方々とコミュニケーションをとるのは、ちょっと？という感じなのではないでしょうか。



もちろん、中には、英語を話せる方がいるでしょうが、それは、学校での英語教育の成果というより、仕事をする上で、生活の中で、独自に身につけられたものではないでしょうか。

小学校3年生の時に東京オリンピックがありました。私の衝撃は、開会式の入場行進でした。世界には、こんなにも多くの国があって、肌の色の違う人たちがいて、行進の仕方も国によって違うんだという、これまで見たことないテレビ画面からの衝撃でした。

田舎の町には、外国の方が来ることはなく、一度、ヒッチハイカーが町を訪れ、町中が騒然となったことを覚えています。子どもながらにどんな人だろうと寝ている場所にのぞきに行きました。ひげを生やした背の高いほっそりした金髪の男の人でした。話しかけられて、思わず友だちと逃げてしまいました。

そんな自分の経験もあり、私は、来る2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、現在、海老名市の英語教育の計画を策定しているところです。今年度中に、来年からの4カ年計画を策定し、市として取り組んでいきたいと考えています。

今後、4年間の海老名市の英語教育の中で、学年に応じて、「世界の人々とのコミュニケーションを楽しみ、自分や海老名のことを英語で紹介できるえびなっ子」を育てたいと考えているところです。

内野市長さんと私は、同じ昭和30年生まれで、子どもの頃のオリンピックの記憶が残っていて、内野市長さんは、「2020年は、海老名の子どもたちが会場に足を運んで、実際に、生で、オリンピック・パラリンピックを体験できるようにしたい。」と思いを語っています。私も同様に思っていて、二人で盛り上がっているのです。

オリンピック・パラリンピックの会場で、また、その機に海老名を訪れた外国の方々と、海老名の子どもたちが積極的に英語でコミュニケーションする姿を私はイメージしているのです。

そして、何より、将来、海老名の子どもたちが、日本を飛び出し、さまざまな国を訪れ、多くの外国の方々と交流し、「地球には、いろいろな国があって、いろいろな人が生活していて、その人たちと話し合いながら、地球を守っていく。」というようなグローバルな考え方ができるようになってほしいと、私は思っています。

4年間の海老名市の英語教育の計画については、計画ができ次第、ホームページに掲載します。

次回は、「いきものがかり」について、私が感じたことを述べてみたいと思います。